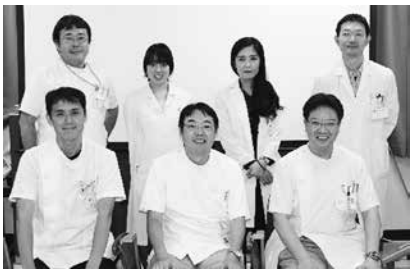
肝臓内科



■診療科長　　永田　賢治

■研修実施担当者　　岩切　久芳

教育施設として認定を受けている学会

日本内科学会、日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本肝臓学会、日本超音波医学会

診療科の概要

肝臓内科では、肝臓疾患全般を広く対象としており、急性肝不全に対する集学的治療やウイルス性慢性肝疾患に対する抗ウイルス療法、自己免疫性肝疾患の診断と治療、食道静脈瘤に対する内視鏡的治療、そして肝癌の診断および内科的治療を行っています。肝癌や門脈圧亢進症については肝胆膵外科や放射線科の先生方と治療方針を相談しながら最適な治療法を選択しています。

研修症例の特徴

肝臓疾患の診療には病態の理解だけでなく、肝臓の解剖学的・生化学的な特徴の理解が必要であり、加えて腹部画像診断にも習熟する必要があります。基本的な身体診察手技は勿論ですが、一般的な血液生化学検査に関しても、より深い理解が必要となります。また、ウイルスマーカーや腫瘍マーカー、病理学的所見等の理解も必要であり、これらを症例を通して経験します。更には腹部超音波検査、内視鏡検査、肝生検などの手技を実際に経験します。グループカンファレンスや HCC カンファレンスなどを通して診療方針を学習し、学会発表などで知識の理解を深めていきます。

研修目標

【一般目標（GIO)】

- 患者・家族との良好な信頼関係をたもち、医療グループの一員としての自覚をもつことができる。
- 病歴、診察、各種検査から得られた患者さんの情報を十分検討しながら、全人的に診ることが出来る視野を備え、エビデンスに基づき適切かつ迅速に診断、治療を実践できる。

【個別行動目標（SBOs)】

- 担当症例において系統的に病歴聴取、身体診察を行うとともに、得られた情報をもとに適切な診療計画をたてられる。
- 症例の問題点や治療方針などの要点を把握しつつ適切にプレゼンテーションを行える。
- POS に従った診療録の記載ならびに退院時サマリーの記載、提出を遅滞なく行える。
- 適切に患者・家族とコミュニケーションをとり上級医と相談しながらそれぞれと信頼関係を確立する。
- 注射（筋肉注射、皮下注射、静脈内注射）・採血（静脈、動脈）を安全・清潔に施行できる。
- 輸液療法の基本を理解し、一般的な輸液メニューをくむことができる。
- 血液製剤や血漿分画製剤による効果と副作用を理解し、輸血療法を適正に実行できる。
- 内科的治療の適応、外科手術の適応の判断ができる。
- 内視鏡・画像検査の手順・方法論について理解し、診断結果を説明できる。担当症例については腹部超音波や消化管内視鏡などの検査、処置を自身で経験する。

研修方略

【指導医および指導体制】

研修医は、卒後4年目以上の医員、および教官と一緒に、3人で診療に当たります。腹痛、発熱、黄疸、吐下血時の対処、基本的検査値の解釈、胸腹部X線、心電図、CT・MRI・超音波を含む腹部画像・内視鏡画像の読影、輸液の方針、感染症の考え方、抗生剤の使用法、全身管理の考え方などを、実際の症例を指導医と一緒に担当していく中で経験し学びます。担当症例は、グループカンファ、回診で検討します。

肝・消化器分野の専門医を取得した臨床経験豊富な指導医が揃っています。

【勉強会やカンファレンスなどの研修教育活動】

- 週一回のカンファレンスで症例の検討を行っています。
- 火曜日の医局研究会:抄読会、ミニレクチャー、学会発表の予行、研究進捗状況報告（自由参加）。
- 他科との合同カンファレンス： HCCカンファレンス（肝胆膵外科、放射線科と合同、自由参加）。
- 内科合同カンファレンス（一回／月）。

【週間スケジュール（各検査への参加は各自自由）】

	午前	午後
月	指導医回診、病棟診療、消化管内視鏡 腹部超音波	病棟診療、治療内視鏡、造影超音波 肝生検、超音波ガイド下治療
火	指導医回診、病棟診療、腹部超音波	新患紹介、教授回診、抄読会、レクチャー
水	指導医回診、病棟診療、消化管内視鏡、 腹部超音波	病棟診療
木	指導医回診、病棟診療、腹部超音波	病棟診療、グループカンファレンス 造影超音波、肝生検、超音波ガイド下治療
金	指導医回診、病棟診療、消化管内視鏡 腹部超音波	病棟診療

研修評価

○　オンライン卒後臨床研修評価システム（EPOC）による研修実施内容の評価（観察記録）

指導医・先輩医師からのメッセージ

入局して8年目の大園と申します。肝臓内科では急性肝炎などの急性疾患、ならびに慢性肝炎、脂肪肝、肝硬変、肝癌などの慢性疾患を幅広くみることができます。さらに肝臓だけでなく胆道疾患やそれに伴う敗血症など、全身管理を必要とする疾患も多数経験できます。吐下血患者に対する緊急内視鏡・緊急止血術など、救急疾患も豊富に経験することができます。また、腹部超音波、造影超音波、肝生検などの検査、肝癌に対するラジオ波焼灼療法や食道・胃静脈瘤に対する内視鏡的な治療、その他の手技（腹水穿刺、中心静脈ルート確保など）も豊富に行っており、多くの経験をつむことができます。特に腹部超音波検査は、侵襲性がなく、手技を身につけておくと様々な科で診断に役立ち非常に有用です。学会発表なども積極的に行っており、臨床医として総合的に向上することができます。スタッフの人数は少なめですが、その分上級医と密に連携し、指導を受けることができます。一度、私達と一緒に肝臓内科で働いてみませんか。